

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◎感想、◆意見・要望	
青梅学の推進	自分の住むまち青梅を愛する生徒を育成する。	3年間の総合的な学習の時間を中心に計画的に「ふるさと青梅(青梅学)」を展開する。	1学年、2学年で青梅の自然・歴史・伝統・文化・産業を学ぶ。 3学年は、持続可能な「ふるさと青梅」を個人テーマで提案する。 地域調査充実のため、地域人材・地域教材を活用する。	A A A	4.7	2年目の取組であったが全体的に数値が向上している。総合学習やボランティアで進めて少しずつ成果が出始めている。	継続する。西中校区一丸で青梅学を定着させる。学習発表会の実施や校内掲示、各種お便り、HP等で活動を紹介する。	◎青梅の地域性を学習する意欲が見られる。 ◎生徒の感想などから青梅愛を感じられる。 ◎校外学習や職場体験を通じて、また、自らの考えをプレゼンすることで、郷土への愛着やシビックプライドの情勢に努めた。 ◎評価アンケートからも充分達成できたと思われる。 ◆梅や柚子の収穫ボランティア等により梅郷・三田地区についての理解が深まっている。市内での職場体験により、青梅学が醸成されている。 <u>是非、継続していただきたい。</u> ◆学習の成果が出てきていると感じる。 <u>地域の人材、文化遺産（御岳山、吉川英治、鎌倉街道、川合玉堂等）を生かした学習をしてほしい。</u> 青梅の学習ということでもいいが、 <u>青梅西中学内の学習に特化しても良いのではないかと</u> 思う。（自分たちの周りには素晴らしい歴史、伝統があるということを学ばせたい） ◆落ち葉肥料、梅水(ジュース)づくり等のボランティアとは異なる活動も良かったです。 <u>地域の特性を生かした活動を更に探して活動してほしい。</u> ◎青梅学で青梅を知って広められる教育、とても良い環境で学べる子どもたちが羨ましいです。
学力向上の指導の工夫	学習の基礎・基本の習得、課題解決のできる思考力・判断力・表現力の育成。	学習の基礎・基本を確実に身に付け、仲間と共に学習する楽しさを知る。	家庭学習の習慣化に向けて、適切な方法を工夫する。 興味・関心を引き出す教材・教具、協働学習等を工夫する。 タブレットPC、電子黒板等のICT機器を適切に活用する。	B B A	3.9	ICT活用や学習教材、指導方法の工夫が高く評価された一方、家庭学習では保護者の期待値に届いていない。	家庭・小学校との連携で推し進める。メディアブリの導入。放課後の学習支援。メディアコントロール指導と合わせて学習習慣を強化。	◎家庭学習の習慣化は家庭にも問題があり、教員の頑張りとの温度差を感じられる。 ◎授業の創意工夫・生徒との言葉のやり取りに気配りを感じられる。 ◎ICTの活用などを通して家庭学習の定着・学力向上に取り組んでいる。 ◎学校が様々な取り組みを実施して学力向上を目指しているのがよくわかる。あとは生徒の学力が伸びたかどうか…。 ◆スタディサブリ等の導入や放課後の学習支援を実施する努力が見られる。受動的な学習になりがちなため、 <u>今後は表現力向上の視点でも指導するとよい</u> のではないかと史料する。 ◎授業を見学したが、去年に比べ一段とレベルアップしている。特に、電子黒板、タブレット、協働学習（グループ学習、グループ発表）がしっかりとできていた。生徒も授業によく参加している。教員と生徒のキャッチボールが増え、楽しい授業が実践できるようになってきた。◆今後は、 <u>教員の発問で授業の方向性が決まるので、よく吟味して授業展開をしてほしい。</u> ◆習熟度別学習は良いと感じる。数学で実践していたが、 <u>他の教科でも取り入れられたら実践して</u> 検証してほしい。 ◆スタディサブリ等の家庭学習の努力もあり、徐々に家庭学習も浸透してきているが、やはりまだまだだと感じる。先生たちの努力が保護者の方々へ上手く伝われば良いと思います。
連携教育の推進	地域・家庭から安心され、応援される学校になる。	小学校や家庭・地域等の関係機関の教育力を取り入れた社会に開かれた教育活動を行う。	青梅型コミュニティスクールとして学校運営協議会との連携を密にする。 小中連携強化のために合同研修会を充実させる。 地域の活動にボランティア等で積極的に参加する。	A B A	4.3	学校便りやコミュニティスクール便りで活動を紹介でき成果が表れ始めた。小中合同の取組の発信が不足。	継続する。小中合同の取り組みを一層強化する。地域人材の活用と家庭・地域への活動報告を大切にする。	◎学運協や民児協学校訪問で学校の状況や生徒の様子を教員から報告を受け、的確な見守りを行える。 ◎学校だよりを地域で回覧したり、地域の方を招聘して講師をお願いするなど、地域との連携に取り組んでいる。開かれた学校に向け、更なる推進を期待する。 ◎地域ボランティアの参加はすばらしい。 ◆ <u>小中連携をもう少し強化してほしい</u> （どちらかというと小学校側）。 ◆コミュニティとの連携に関する評価は5に近い4とし、小中連携については2とした。学校がオープンで大変良い。校長・副校長の丁寧な説明やなんでも話してくれるオープンな気持ちが西中を地域にオープンに広げていると思います。ボランティアに関する地域での評判がとても良く、 <u>小学校との連携は今一歩であると感じる</u> 。小学校が閉鎖的に感じる事が多く、 <u>まずは教員から積極的に交流を深めてほしい</u> 。これからますます児童・生徒数が少なくなるので、重要なポイントであると感じます。 ◆西多摩新聞1面での柚子もぎ記事のように、 <u>西中ボランティアが有名になったきたので、その活動をもっと広報してほしい。</u> ◆学校だよりの字が小さく見る気持ちにならないので、 <u>老人にも見えるように字のポイントを大きくしてほしい</u> 。また、「 <u>西中生のちょっといい話</u> 」コーナーを作って、地域で聞いた生徒の良い話を書いたらどうでしょうか。面白いと思うのですが。 ◆ <u>地域の特性を活かして小中連携を図り</u> 、学力向上ができればいいなと思います。
特別支援教育の充実	特別支援教室の生徒及び通常級の生徒で支援の必要な生徒に特別支援教育の実践をする。	インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	様々な特性をもった生徒たちが互いを尊重し、協力する集団作りを工夫する。 教室や学年フロア等のユニバーサルデザインを意識した環境整備を行う。 特別支援教室やSCをはじめ、各支援員と連携した教育活動を実践する。	A B A	4.3	生徒・保護者の回答が高い達成度であった。一方、教員はユニバーサルデザインを意識した教育環境整備が不足していると考えている。	個性を認め、高め合う学校として今後も教育環境を見直し、教育活動全体で組織的に実践していく。教員がユニバーサルデザインの視点を研修する。	◎教員は生徒それぞれの様々な個性に寄り添い、生徒の心に無理のない支援を心掛けている。（あゆみ教室） ◆基本的には一人ひとりの個性を尊重する教育が実践されていると史料するが、アンケート結果にも見られるように更なる推進を期待する。 ◆多摩川1万人清掃等へボランティアとして積極的に参加している。一方で来年度はPTAがなくなること地区内での行事への参加に対し、個人情報の観点から <u>気安く依頼できなくなることが懸念される</u> 。 ◎個々への対応の時間も少ない中で努力できている。難しいケースなども丁寧に対応できていると感じる。 ◎教室の環境なども良くなってきている。 ◆特性を持った生徒がいるが、対応に苦慮する場合は専門機関に繋げていくことが大切である。専門の先生方に任せることは任せ、教員がやるべき仕事を進めたほうが良い。 ◆生徒と先生が一緒になってユニバーサルデザインを考えていければ良いと思う。
心の教育の充実	人権教育を柱として、心の教育を推進する。	人権尊重の精神にたち、自他を大切にする生徒を育成する。自尊感情及び自己肯定感を高める教育活動の充実を図る。	生徒の人権を大切に敬称呼びや丁寧な言葉掛けを行う。 清掃活動や掲示物等を大切に、生活環境を美しく整備する。 特活や総合、部活等を通して達成感や連帯感を高揚させる。 協働学習から互いの考えを認め合い、高め合う指導を行う。	A A A A	4.6	生徒・保護者・教員、全ての回答で高い達成度であった。	継続する。引き続き特別活動、道德教育を活かした生徒たちによる思いやりのある温かい学校作り活動を計画する。。	◎校舎は古いが、校舎内は美しく整備されている。 ◎いじめを克服した「つつちょ氏」の自身の言葉・演奏は生徒の心に響く講演会であった。 ◎全体的に重大案件は発生しておらず、人権尊重の精神は醸成されていると史料する。 ◎評価アンケートからも充分達成できている。 ◆道德講演会「いじめ防止コンサート」を実施し、生徒は感銘を受けたと史料される。 <u>今後も道德授業だけでなく心に残る講演会を継続していただきたい</u> 。 ◎生徒の心が安定していると感じる。例えば、体育館に集合し、声をかければすぐに静かな雰囲気を作り出すことができている。 ◆教員の心掛けで生徒が右にも左にも動く。 <u>良い言葉かけをし、生徒の長所や良いところを伸ばしてあげるようにしてほしい</u> 。 <u>ダメダメ指導ではいつまでたっても自身の内省と自立しない生徒を育てることになる</u> 。 ◆協働学習で <u>お互いの意見を聞く中で自分とは異なる意見を聞いて勉強し、更に自分の意見を深めていくことができるようにしてほしい</u> 。あと一歩。 ◆西中の良いところを生かした教育を継続してください。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価		分析結果	改善策	コメント欄◎感想、◆意見・要望
進路の実現	キャリア教育の視点に立った進路指導を推進する。	3年間を見通した系統的・計画的な進路指導を実践する。	3年間を見通した計画で、進路指導の充実を図る。 家庭や地域との連携を図り、充実した進路指導を実践する。 小学校から中学校、そして高校へとつながるキャリアパスポートを活用する。	B	3.4	生徒・教員の評価に対して保護者の回答に課題が見られる。家庭で生徒と保護者が進路を考える機会が少ないものとする。	継続する。 キャリア教育の流れを保護者会等の機会にアナウンスする。また、家庭と一緒に学び・考える機会を増やす。	◆将来において自分が考えた進路と今ある現実との差を知った時、どう生きるかを視野を広めて考えられる指導でありたい。 ◆何ができるか、何がやりたいか、何をやるべきかといったキャリアデザイン設計の重要性を学ぶ機会の充実は、学校のみならず家庭においても重要である。 ◆学校は頑張っているが、それが保護者に反映されていない。もっとアピール（PR）をするべき。 ◆中学生の段階で、自分の将来像を描くことを、まだ充分に自分事としてとらえることができないのかもしれないが、職業体験も含めて3年間で考える訓練をする和良好的かもしれない。 ◆やはり家庭学習が最大の問題、課題である。様々な手法を試みて、生徒のレベルアップにつなげていってほしい。 ◆キャリア教育の視点から高校生や大学生、成人の日をからめた20歳の話、西中卒業生の話は身近な先輩の話となり、将来の目標を設定しやすいのではないかと思います。 ◆これは学校の問題というより親の意識の差というか、違いというか、とても難しい課題です。
オリパラ（体力向上）	オリパラの精神やスポーツ、文化、環境について学び、様々な運動を工夫し体力向上を図る。	オリパラのレガシーを活用し、スポーツに興味・関心をもたせる。	パリリンピックに出場する選手の講演会等を適切に生かす。	A		概ね高い達成度である。昼休みに校庭で遊ぶ生徒が多い。一方、保護者で分からないとの回答がやや多く、情報発信不足だと考える。	継続する 次年度は、分からないという回答をさらに減らせるように情報発信を強化する。。	◎教育実技講習で、世界と戦う車いすバスケットボール選手の講話や一緒にプレーを体験できたことはスポーツの楽しみ方を学ぶと同時に、これからの生き方に影響を与えたと考える。 ◎オリパラを一過性のイベントではなく、レガシーとして引き継いでいくことが大切であり、西中では生徒の興味・関心の維持を実践され、高い達成度を実現している。 ◎昼休みに校庭で遊ぶ生徒が多いのは素晴らしい。 ◆運動会では肅々と競技が進行していた。運動の好き嫌いは個性であり、全ての生徒を運動好きにするのは大変かと思うが、良い点を伸ばす教育をしていただきたい。 ◆オリンピック出場などの有名人の講演は地域の人たちにも開放して聞いてもらいたい。西中を更に地域に広げていくことが期待できる。 ◆授業に差しさわりのないように学校全体でスポーツをしていくことが必要である。例えば、マラソン大会など実施し、地域を走り、地域の人に応援してもらい、地域の人たちに手伝ってもらったらよいのではないかと。 ◎継続するのは大変だと思いますが頑張ってほしいです。
			体育的行事や昼休みの校庭利用等を促し運動に親しませる。	A				
			体育的行事や部活動、オリパラ講演会等を通して社会性を育む。	A				
健康・安全	感染症や自然災害に油断することなく、健康で、安心・安全な学校運営を推進する。	教職員が一丸となって命を守る教育を推進する。	感染症予防対策や日頃の健康教育の充実を図る。	A	4.7	概ね高い達成度である。保護者で分からないとの答えがやや多かった。生徒も状況を理解し、協力的に取り組んでいる。	継続する。 次年度は、分からないという回答をさらに減らせるように情報発信を強化する。	◆SNSの講義はいじめ防止・犯罪防止に役立つので毎年の継続をお願いする。 ◎青梅市総合防災訓練に生徒が参加していたので、今後災害があった時、支援活動に生かされ则认为ます。 ◎衛生・健康教育はコロナ禍を経験して、重要度を増している。また、想定を超えた自然災害が発生している今、これらに対する正確な知識や情報分析は極めて重要である。西中ではこれらの課題によく取り組んでいる。 ◆もっと保護者へPRをするべき。 ◎薬物乱用防止教室により、安全・安心、健全な社会とは何かを認識したのではないのかと史料する。保健室からも西中だよりを使って適切に情報発信をしている。 ◆安全教育、健康教育を3年間のローテーションで計画を立てる。 ◆がん教育は難しいところもあるので外部の専門機関から招聘して講演を聞いてもいいです。薬の飲み方なども薬科大学の専門家の人に講演をいただくなど外部の講師を積極的に取り入れるといいです。 ◆災害に対して危機感がないように思います。（これは地域的なのでしょうか。）子供たちの意識が変われば大人たちも変わるかと思う。
			様々な災害を想定した避難訓練や安全指導を充実させる。	A				
			外部機関と連携した専門的・実践的な健康・安全教育の推進。	A				
生活指導	学校いじめ防止基本方針を基にした全教職員による組織的な生活指導を推進する。	問題行動を後追いする指導ではなく、未然防止する積極的な生活指導を行う。	決めつけ指導ではなく、生徒に寄り添い判断力を養う指導。	A	4.4	傾聴や話し方の研修を積み成果も出ている。保護者で分からないとの答えが多いのは生活指導に関わらない家庭が多いからだとする。	継続する。 今後も教員の生徒や保護者への接し方を研修する。また、分からないという回答をさらに情報発信を強化する。	◎学校生活ルールは生徒や保護者の意見を聞き学校生活に支障をきたさない場合は取り得ている。 ◎全てではないが、いじめを早い段階で解決できている。 ◆学校として生活指導に注力し、丁寧に対応している点は高く評価したい。今後、保護者や家庭との更なる情報共有・連携による課題解決を期待したい。 ◆教員研修はとても良いと思う。続けてほしい。いじめ等、大変だと思いますが、頑張ってください。 ◆体育館での集会時に、先生の号令に素直に従って集合・解散する姿を拝見すると学校の生活指導が概ねうまくいっていると思料する。今後も五小・六小と情報共有し、うまく学校運営をしていただきたい。 ◎どの学校もアンテナが高くなり、初期対応できているケースが増えてきた。解決も早く、深入りしないので良いことです。 ◎生徒対応で、両者の意見をしっかりと聞きながら丁寧に対応し、解決に至るケースが増えてきたと感じる。 ◎校則改正なども生徒の意見をしっかりと聞きながら決まりを作ることができ生徒と一体となった学校づくりができていると感じる。 ◎玄関に入るとペットボトルキャップ集めなども実践し、環境への取り組みなどもしっかりと考えさせていて大変良い。 ◎私が夕方、好文橋を自転車で生徒を追い抜いたら、背中越しに「さようなら」と声をかけてくれました。自転車で追い抜いた後にあいさつされることがなかなかないので、とてもうれしく挨拶を返しました。すばらしい生徒が育っていると感じました。 ◆難しい問題に対応していくうえでこれでよしということはないと思いますが、子どものために続けていくことが大事だと思います。
			生徒観察を丁寧に、変化に気づき、報連相を大切にします。	A				
			集団生活のマナー違反を見逃さず、職員一丸で判断力を養う指導を実践する。	A				
部活動	勝利至上主義に走ることなく、健全な心と体を育む。	部活動を通して、社会性や仲間との絆を育む。	ガイドラインにそって、健全育成の理念と計画で運営する。	A	4.4	生徒・保護者・教員が概ね高い達成度である。保護者で分からないとの回答もやや多く、部活未加入の家庭だと考える。	継続する。 専門性が高い地域人材がいれば、そうした方を活用してさらに意欲的な活動になるように支援する。	◎吹奏楽部が地域の祭典に参加したことは、部員の励みになり、地域にとってもありがたい。 ◎部活動について、自身で改めて考えてみると、もっと関心を持つべきだった。 ◆部活動は生徒の人格形成、健全育成に極めて重要と考え、勉学と同等に学校生活に占める割合は大きいと考える。意義ある学生生活を送るべく、思い出に残る充実した部活動の運営を期待する。 ◎生徒の様々な活動報告や表彰等、頑張っている姿がよくわかります。 ◎西中だよりを拝見すると、運動部の大会出場や吹奏楽部の祭礼への参加等、活発に部活動が実施されていると思料する。 ◎限られた部活動のみで寂しい感じがする。 ◆土曜、日曜なども積極的にグラウンドを開放し、地域でスポーツをしていく環境を育てたい。また、西多摩大会等の会場校となり、多くの学校の生徒が集まる雰囲気も作れたらよいと感じる。 ◆小学生（五小）の子ども会もなくなり、子どもの上下関係は社会に出て重要だと思うので、部活動に参加することは良いと思います。
			生徒が目標を持ち、意欲を高める指導で活動を充実させる。	A				
			練習計画や会計報告を整え、保護者と連携した運営を行う。	A				